

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

個々の児童生徒の障がい特性にマッチしたきめ細かい教育を専門性豊かな教職員が、児童生徒および保護者のニーズに応えながら系統的かつ継続的に実践していく学校をめざす。

- 一人ひとりの障がい特性に応じ、キャリア教育をベースとしながら個々の児童生徒に見合った個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成する。
  - 科学的見地から個々の障がい特性の理解を深めていくとともに、教育実践を通じて児童生徒の社会自立の実現をめざす。
  - 「めざす児童生徒像」を共有し、自己選択・自己決定できる力を育む、子どもの成長を見守り、忍耐強く妥協しない教育を実践する。
- 卒業後の社会参加をめざし、地域及び各方面との交流や関係諸機関との連携を通じて、それぞれのコミュニケーション力や自己決定力を高め、「ともに生き ともに学ぶ」取組みを推進する。
  - 小学部から高等部まで、キャリアプランニング・マトリックスを指標とした教育活動の一貫性、継続性、系統性を確立する。
- 地域における特別支援教育のセンター的役割を果たすため、地域支援、巡回相談などの紹介や実績について積極的に情報発信する。
  - 「地域支援室」に相談支援のためのツール、検査用具、教材、教具ライブラリーを設置し活用する。
  - 校内支援体制の充実を図り、関係諸機関との日常的な連携を推進する。

## 2 中期的目標

- 児童生徒一人ひとりの障がい特性に柔軟に対応できる専門性を向上していく。
  - 「学習指導案」「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」「個別の移行支援計画」のより密接・円滑な連動、より広範な活用をめざす。
  - 先進的指導法や実践事例を整理検討しながら、知的障がい支援教育における「自立活動」の位置づけを明確にし、さらなる向上発展をめざす。
  - 学校生活全般において ICT、ユニバーサルデザインを活用し、授業力の向上と児童生徒に有効な支援の工夫に努める。
  - ケース会議の開催を工夫して、児童生徒ならびに保護者にとって有益なものとなるように努める。
  - 人権教育を推進するために、傾聴の姿勢を養い、児童生徒一人ひとりの障がい特性理解を深め、実態に即した支援の研究に努める。
- 全校的なキャリア教育の充実を図る。
  - 小学部、中学部、高等部それぞれの段階において、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」「個別の移行支援計画」の内容が、一人ひとりのライフステージに的確に反映できるように努める。また、本校独自の「キャリアプランニング・マトリック」を策定し、上記の計画の柱とする。
  - 児童生徒の「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の形成のため、教科・領域および自立活動における授業内容を連続深化させ、日々の教育活動に反映させるとともに、それぞれの生活を充実させるために余暇活動を支援する。
  - 児童生徒の発達に応じたキャリア教育推進の組織を編成し、PDCAサイクルにより、就労自立や社会参加のための教育の充実を図る。
  - 交流および共同学習、体験学習、職場実習などを推進し、近隣地域の小学校、中学校、高等学校等との交流や、事業所等での実習、および企業等における職場実習の拡充を図る。
- 地域における他校種の教職員や保護者の支援教育理解と実践力の向上及び校内支援の充実を図る。
  - 校内における人事交流の活性化、相談会、研修会の定期的開催の充実を図る。
  - 本校通学区域の各市町教育委員会と連携し、小学校、中学校との交流および共同学習等の連携をすすめるとともに、定期的な学習会を開催し、豊能地域の特別支援教育力向上を図る。
  - 地域（本校通学区域）に向けて、本校の教育活動内容や行事、各種取組み、防災・防犯活動について積極的に発信していく。
  - 地域（本校通学区域）や他校種からの外部評価や意見の収集を工夫し、積極的に学校運営に反映していく。
  - 地域とのつながりを深めていく中で、児童生徒、保護者、地域住民それぞれに有益な活動を協力して作り上げていく。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○ 保護者及び教職員を対象に実施</p> <p>○ 保護者からの回収率は、全体で 73%（小学部 68%、中学部 74%、高等部 76.7%）で昨年度より 1%減。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の評価で最も低かったのは、昨年度に引き続いて「学校は児童生徒の余暇活動を積極的に支援している」の項目だった。今年度は、土曜日の学校での取組みの拡大継続（陸上・サッカー）や、近隣スポーツセンター等の催しの情報提供、サッカー観戦やサッカー教室、チャリティボウリング大会等の参加募集を行った。参加者からは好評であったが、全体的な保護者の実感としては余暇活動に対する積極的な支援にはなり得ていなかったと思われる。今後は、地域活動の情報提供や放課後・休日・長期休業中の余暇活動支援への外部の力やボランティア活用等も視野に入れて検討していきたい。</li> <li>「子どもが学習しやすいに施設・設備が整えられている」の項目は、昨年度より 2 ポイント減となり、2 番目に評価の低い項目であった。これについては学校予算に係る問題でもあり、引き続き要望していくとともに、校内で工夫できることを再点検していきたい。</li> <li>その他の項目については概ね良好な評価となっている。</li> </ul> <p>○ 教職員からの回収率は、昨年度の 68.6%より大幅な改善が見られ、教員はほぼ 100%に近い回収率となった。（教職員全体の回収率としては 93.5%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価が高い項目としては、昨年度から引き続き「児童生徒に人権意識を持って接し体罰やいきすぎた指導は行わない」が 90.8%であった。今後も高い人権意識を持ち、児童生徒が安全・安心に過ごせる学校づくりを継続していきたい。</li> <li>「児童生徒の支援・指導について学部間の引継ぎや連携がうまく行われている」の項目は、中学部 65.2%、高等部 64.8%に対して、小学部が 42.4%と低いのが目立った。要因を明らかにし具体的な改善を図っていきたい。</li> <li>「学校運営に、教職員の意見や提案が反映されるシステムになっている」の項目は、昨年度の 50.5%から 56.5%に評点が上がった。やや改善されたものの数値としては低いため、今後の検討課題としたい。</li> </ul>	<p>&lt;第 1 回（7 月 12 日）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度の本校の取組みについて           <ul style="list-style-type: none"> <li>クラブ活動は、中学部は課内、高等部は課内と課外があるが、子どもたちにとって同一クラブを継続した方がいいのか、他クラブでたくさんの経験をした方がいいのか検討を要する。卒業生が課外クラブに参加しているのは良いことだ。</li> <li>卒業後の生活を考え、自分から YES/NO/HELP が言えるコミュニケーション力の指導に尽力してもらいたい。</li> </ul> </li> <li>○ 授業見学後の意見：小学部入学 1 学期に授業を受けるルールを徹底させることが大事で、それが卒業後の進路に繋がっていく。</li> <li>○ 教科書について：実際にどのような教科書を使用しているかわからない保護者もいるので、周知の工夫をしてほしい。</li> </ul> <p>&lt;第 2 回（10 月 4 日）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 校内見学（下校の様子）後の意見：事業所の迎車の多さに驚いたが、学校と事業所とが連携して円滑に行われていた。安全に実施してほしい。</li> <li>○ 長期休業中の承認研修報告：研修タイトルを一覧表にして配布する等、報告書の活用を工夫してもらいたい。</li> </ul> <p>&lt;第 3 回（2 月 8 日）&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校教育自己診断の結果報告：結果を分析し考察を重ねていくこと自体に意味がある。全教職員に周知して、教職員一人ひとりが教育活動に繋げていく意識をもち、次年度の構想を練ってほしい。余暇活動に対する学校からの支援については、児童生徒が将来、地域で生活することを見こした情報提供のあり方が課題であろう。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 専門性向上の取り組み	<p>(1)児童生徒の障がい特性理解と指導・支援に中心を置いた専門性向上の取組み</p> <p>ア 校内研修・研究体制の整備推進</p> <p>イ 日々の教育実践における具体的成果の蓄積</p> <p>ウ 地域における他校種、保護者の支援を通じてのセンター的役割の遂行</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自閉症スペクトラム等についての知識や児童生徒への対応、指導・支援方法に関する情報を積極的に収集し、授業等で実践する。</li> <li>・管外の研修会等へ積極的に参加し、先進的な教育を取り入れて全校的な専門性の向上を図る。</li> <li>・各授業において指導（略）案の作成、プランナーとサブ教員の連携強化を浸透させる。</li> <li>・指導教諭や首席、部主事等を活用し、初任及び2年目の教諭の専門性の向上や新転任者に対する支援の充実を図る。2年目の教員に新転任研修の運営を任せ、初任者等とのつながりを作りながらOJTを進める。</li> <li>・初任者や10年経験者の研究授業・研究協議を行い、校内全授業の改善につなげる。</li> <li>・10年研修受講者の学校運営への参加を促す。</li> <li>・授業アンケートを年間3回以上実施する。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要の発行及び実践交流会を実施する。</li> <li>・検査等に対する教員の理解を深めるとともに、個別の支援計画への活用方法の検討を行う。</li> <li>・ST、OT、臨床心理等の専門家から学び、個別の支援をより専門的に進める。</li> <li>・出前授業などを通して、児童生徒のキャリアを視野に入れた実践を重ねる。</li> <li>・校内人権研修を年3回行い、日々の教育活動に反映する。</li> <li>・ICT機器を有効に活用したり、アクティブラーニングを取り入れたより分かりやすい授業を展開することで、児童生徒の生きる力を育む。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターを中心に巡回相談等に積極的に応じて地域支援を進め、センター的役割を果たす。</li> <li>・各市町の体制を把握して、各児童生徒への支援の手順等についての研修を行う。</li> <li>・各学部にリーディングスタッフを置き、コーディネーターとともに、支援が必要な児童生徒の事例に迅速に対応できる校内体制を整備する。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科研（自立活動・情報教育・自閉症・生活・課題・作業）での研究内容及び成果を年2回報告し、教員全体で共有する。</li> <li>・全国レベルの研修会等へ2名以上は参加し、その都度、報告・伝達講習会を行う。</li> <li>・TT連絡票、指導略案の活用をより一層広げる。</li> <li>・新転任者（講師含む）研修会を9回程度実施する。</li> <li>・10年研修受講者の成果発表会を年2回行う。</li> <li>・授業アンケートを年間3回以上実施し、保護者の思いや意見を授業改善に反映させる。また一部生徒へアンケートを実施し、生徒の授業に対する意識を高め、自分の意見を表出する力をつける。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紀要の発行と実践交流会の実施において、本校の教育についての具体的成果を確認し、校外へも発信していく。</li> <li>・S-M社会生活能力検査を実施し、個別の指導計画に反映させる。</li> <li>・福祉医療等人材の活用を推進するとともに、知識や技能を共有していく。</li> <li>・音楽や体育のプロによる出前授業や人材バンク活用による家庭科さをり織・外国語教育の実践を重ねる。</li> <li>・参加型の人権研修を実施し、体罰防止や障がい理解等を進め、人権意識をより向上させる。</li> <li>・引き続き、セルフチェックシートでの月に1回の自己点検を定着させる。</li> <li>・ICT機器を活用した授業実践発表やアクティブラーニングを使った授業を積極的に発表し、成果を紀要で発信する。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の福祉課や子ども家庭相談室、子ども家庭センターとの連携を図るため、各市の研修会等に参加する。</li> <li>・各市町の社会資源（施設等）の見学会を夏季休業中に実施し、支援の連続性を深める。</li> <li>・コーディネーターとリーディングスタッフが連携して各学部における不登校事例や重い行動障がい等の状況を把握し、必要に応じてケース会議を実施する。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より教科研チーフ会議を発足させ、各教科研の情報共有を図った。(○)</li> <li>・管外研究研修会に3名が参加、報告会を実施した。(○)</li> <li>・TT連絡票、指導略案の活用については今後の課題。(△)</li> <li>・校内新転任者研修を年11回実施。2年目教員が運営に関わるシステム作りが進んだ。10年研修受講者が研究授業・成果発表会を実施した。(◎)</li> <li>・授業アンケートの集計結果及び考察を保護者・教員に報告して授業改善に反映させた。(○)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践交流会には外部より約90名が参加、センター的役割を果たした。年間の取組みを研究紀要にまとめた。(◎)</li> <li>・新入生及び転入生にS-M社会生活能力検査を行った。教員研修も実施した。(○)</li> <li>・福祉医療等人材活用事業で48名の相談等を実施。人材バンクではさをり織の授業を実施して活用を進めた。(○)</li> <li>・人権研修3回、月1回の自己点検を実施、人権意識の高揚を図った。(○)</li> <li>・各学部で授業発表し、研究紀要にまとめた。(○)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回相談件数100件余、各市町主催研修講師8件。(○)</li> <li>・各市の支援連携協議会、自立支援協議会、要対協に参加。また2施設において2回の見学会を実施した。(○)</li> <li>・LSが各学部Coとしても活動し、ケースの状況把握しケース会議を実施した。円滑な運用が今後の課題。</li> </ul>

<p>2 全校的なキャリア教育の充実</p>	<p>(1) キャリア教育の充実にむけた取組み</p> <p>ア キャリア教育の実践的展開・推進</p> <p>イ 各学部におけるキャリア教育の視点に立った教育課程の確立</p> <p>ウ 職業体験活動の早期からの実施と体験業種の拡大</p> <p>エ 児童生徒の生活充実に向けた余暇活動の支援</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学部教職員が連携・協力して、「キャリア教育」の視点にたった系統的な教育を推進する。</li> <li>教科研究会で、各教科・領域・自立活動の授業において、より「生きる力」の育成をめざした内容の授業づくりをする。</li> <li>児童生徒会活動、図書活動をキャリア教育の一環として位置づけ、充実を図る。また、政治的教養をはぐくむ教育の充実を図る。</li> <li>清掃実習や校外ボランティア等の充実を進める。</li> <li>発達段階に応じた健康教育の実践を進める。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学部の児童生徒の実情に応じた教育活動の展開。キャリアを意識した授業づくりの推進と独自のキャリアプランニング・マトリックスの策定。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業参観時を活用した保護者への販売実習や総合学習、校外実習等、さまざまな機会を通じて早い段階から児童生徒の就労意識を高める。</li> <li>児童生徒間での販売実習、買い物体験の促進。</li> <li>早い段階での職場見学、職場実習を実施し、児童生徒の将来に対するイメージ作りの推進。</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>放課後や休日の活動を中心として、運動系・文化系の取組みを、児童生徒の興味関心と照らし合わせながら促進する。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本校独自の「キャリアプランニング・マトリックス」を作成し活用する。また、学部間の引き継ぎの際のツールとしても活用をめざす。</li> <li>月1回、教科研究会を実施し、年度末には研究紀要等で成果の発表を行う。</li> <li>児童生徒会活動をより一層充実させ、選挙や自治活動について学ぶ機会を作る。期日前投票を模索する。</li> <li>図書室の充実と読書活動の推進を図る。</li> <li>中・高等部では年3回程度、外部講師を招いての実践的な授業や校外活動で人の役に立つ経験を増やしてキャリアにつなげていく取組みを行う。</li> <li>健康教育（性教育を含む）の分野では、各学部の取組みを整理し、発達課題に応じたカリキュラム作りを進める。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(高) 生徒による職業コースの実践発表、授業紹介を実施する。(2、3学期)</li> <li>キャリアプランニング・マトリックスの作成と各授業とのリンクを明確化し共有する。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実習場所の拡大を関係機関や地域との連携も含めて推進する。</li> <li>校外での販売体験・実習の実施の定着、拡大をめざす。</li> <li>生徒による実習体験発表会を、中学部は体験実施後の振り返り時に、高等部は学期1回程度実施し定着させる。</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動内容や参加者数を学校だより等で発信し、保護者や外部機関との連携等も模索していく。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の重点項目を絞り込み、各項目の内容を具体的に示していく形態とした。(○)</li> <li>教科研究会の成果を研究紀要に掲載した。(○)</li> <li>実際の選挙用品を用いて、選挙の体験をした。(○)</li> <li>図書活動で保護者や地域ボランティアの活用が進んだ。(○)</li> <li>身だしなみやメイク、性教育、清掃教育等を実施した。健康教育部を中心に、各学部での性教育をまとめた。(○)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者からも好評価を得た(○)</li> <li>本校キャリア教育の重点項目を整理したが、マトリックス完成には至っていない。(△)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保護者と共催のサマーイベントやバザーで、カフェや青果物の販売等を実施した。(○)</li> <li>中学部から保育所や図書館等での職場実習を実施した。(○)</li> </ul> <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>土曜日の学校での取組みの拡大継続や、外部機関の催しの情報提供等を行い、週末の余暇活動の充実に努めたが、今後、ボランティア活用等も視野に入れて検討していきたい。(○)</li> </ul>
<p>3 地域との連携の強化</p>	<p>(1) 地域支援体制の更なる強化</p> <p>ア 巡回相談、校内支援体制の確立</p> <p>イ 児童生徒の生活を視野に入れた地域との連携</p> <p>ウ 地域の他校種にむけた情報の発信と共有</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学部のコーディネーターを通じて校内支援体制を強化する。また、リーディングスタッフから得る地域の情報を校内で有効に活用する。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個々の児童生徒の定期的、継続的なケース会議に、必要に応じて居住地の関係諸機関が加わり、多角的な視点で支援の在り方、社会資源の活用方法を模索する。</li> <li>本校の防災・防犯計画を発信し、児童生徒の安全・安心を地域とともに支える体制を築いていく。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援学校L Sと各市町との協働を進めることで互いの支援教育力、ケース対応力の向上を図る。</li> <li>学校間交流及び共同学習において各学部の交流運営について情報交換を進める。</li> <li>本校居住他校交流の取組みについて市町教育委員会と連携しつつ地域の学校への周知、理解を進める。</li> <li>地域情報や支援教育情報を校内、保護者、地域に発信する。</li> <li>本校の教育を幅広く発信し、保護者や地域との連携を深める。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内支援体制を強化するために、定期的に地域の状況、巡回相談の連絡会を行う。虐待に対応するフローチャートの徹底と、ケース会議記録の活用を図る。</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域での関連施設や放課後等デイサービス移動支援、居宅支援等の具体的な活用事例の提示、またネットワークファイルの利用回数を拡大するため有効な事例を学期に1回は紹介する。</li> <li>本校防災・防犯計画を地域、保護者に積極的に発信する。また、様々な状況を想定した引き渡し訓練を年2回実施する。</li> <li>各家庭で居住地の避難場所を確認してもらい個別のネットワーク表に記載することで、学校と共有する。</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>巡回相談において支援学校L Sと市町L Tの協働回数を増やし、必要に応じて市町の事例検討会に参加する。</li> <li>校内の各学部交流担当者が、1学期に意見交換（現在の取組みの長所と反省、担当者の役割確認、目標設定）を行い、それぞれの取組みに活かす。3学期に整理、まとめを行う。</li> <li>各市教育委員会へ地域の学校の居住地交流への理解が進むように、必要な情報提供等を行う。</li> <li>地域連携支援部だよりの発行（月1回）。ケースから得た情報を伝えるなど活用の幅を広げていく。</li> <li>学校、地域だよりを発行し情報の発信や共有を行い、学校に対する理解・協力を図る。(月1回発行)</li> <li>ホームページを月に1回は更新し、学校の発信力を高めることで、地域の理解や協力連携を深める。保護者との情報交換のツールとしても役立てる。</li> </ul>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期に1回、各学部会で巡回相談の状況について報告した。(○)</li> </ul> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外部関連機関を交えたケース会議を小学部6回、中学部10回、高等部11回行った。</li> <li>授業参観日に地震避難訓練を実施、保護者の参加を促して理解を図った。引き渡し訓練は2回実施した。各家庭でネットワーク表に居住地避難場所を記載した。(○)</li> </ul> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学期複数回の市町リーディングチーム会議へ参加した。また、市の事例検討会に参加した。</li> <li>毎月の分掌会議で報告しているが、まだ取組みには活かしきれていない。(△)</li> <li>学校間交流は3学部で5校・のべ42回実施した。居住地校交流は小学部13名・のべ18回、中学部27名・のべ40回実施できた。(◎)</li> <li>月1回、保護者向きに学校だより、近隣には地域だより（約200枚）を発行して学校の情報を発信している。(○)</li> <li>HPは各部署から情報を発信し徐々に内容を充実させてきているが、まだ改善の余地がある。(△)</li> </ul>